

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和8年6月定例会	
議案番号 議案名	議案第3号 令和8年度松戸市一般会計補正予算（第2回）
議員名・会派名等	嶋原 舞
賛否態度	反対
賛否など態度決定 に至った理由や 討論	【議案の概要】 現地建て替えに向け、仮庁舎整備と新庁舎整備基本計画の策定を進めるための補正予算。補正額7億6,591万4千円。 ・主な内容 仮庁舎の内装改修、什器購入、清掃や警備、千葉銀行出張所移転に伴う調査・手数料 現市役所敷地での新庁舎整備基本計画策定 【反対理由】 現市役所敷地での新庁舎整備を具体的に進めるための予算であり、現時点で賛成することはできません。 本補正予算では、新庁舎管理事業として7,177万5千円、また債務負担行為として新庁舎整備基本計画策定業務委託料1億6,747万5千円が計上されています。 あわせて、現地建て替えに向けた基本計画等に関係して、約2億3,925万円の枠が示されています。 市役所庁舎は、単に老朽化した建物を更新するというものではなく、松戸駅周辺の人の流れ、公共空間、民間投資、そしてまちの将来像にも大きく関わる施設です。 だからこそ、市役所をどこに、どのようにするのかは、新拠点ゾーンへの移転よりも現地の方が安いから、早いから、という費用や工期の比較だけで決められるものではありません。

現市役所敷地は、松戸駅周辺まちづくり基本構想における商業・業務ゾーンに位置づけられており、都市機能の更新や回遊性・滞留性の向上を図る場所であるとの説明があり、

また、新庁舎についても、単なる行政手続きの場にとどまらず、市民活動スペース等を通じて、松戸駅周辺のまちづくりにも資するにぎわいの場となるよう検討するとの執行部のお話でした。

しかし、私は、その説明を聞いても、十分な納得感を得ることはできませんでした。

まず行うべきは 現敷地に市役所があることでのめざすべき将来像や、理念が何であるのかを基本の構想として定めることであり、今回の議案に出てきているような基本計画は、そのあとに具体的な「形やスケジュール」として落とし込むものだと考えます。

今回示された新庁舎整備基本計画策定業務の内容を見ると、新庁舎整備案の作成、庁舎に求められる機能と部屋配置、災害対応拠点としての機能、庁舎敷地周辺整備、耐震診断、解体工事設計、事業手法、概算事業費、財源整理などが中心となっています。

これらは庁舎整備の基本計画をつくるうえで必要な検討ですが、

その前に、現市役所敷地の新庁舎を松戸駅周辺のまちづくりに資するものとするのであれば、庁舎単体の機能や配置の前に、現地に建て替えると決めた市長の思いを先に示すべきだと考えます。

他市の事例を見ても、市役所の建て替えや移転をまちづくりに活かす場合には、単に建物を新しくするのではなく、市役所をどこに置くのか、その場所をまちの中でどう機能させるのかという青写真が示されています。

例えば長岡市では、市役所機能を中心市街地に移し、市民交流拠点のアオーレ長岡を整備することで、市役所、アリーナ、屋根付き広場、市民交流の機能を一体化させました。

これは、単に庁舎を建て替えたのではなく、市役所機能をまちなかに戻し、人が集まり、交流し、中心市街地のにぎわいを生み出すためのまちづくりとして進められたものです。

また、横浜市の新市庁舎は、関内地区とみなとみらい 21 地区の結節点に位置づけられ、庁舎の低層部にアトリウム、市民利用機能、商業機能などを配置し、市庁舎そのものがまちのにぎわいと回遊性を生み出す拠点となるよう整備されています。

これらの事例に共通しているのは、市役所をどこに建てるかという判断が、単なる建物の配置ではなく、まちの人の流れ、にぎわい、市民交流、周辺地区とのつながりまで含めた青写真の中に位置づけられていたということです。

松戸市においても、現市役所敷地に新庁舎を建てるのであれば、市役所が建たなくなった新拠点ゾーンと、松戸駅周辺全体をどのように一体的に育てていくのか、その青写真を示す必要があります。

市長の青写真がなければ、市民意見を聞いても、何を基準に受け止めるのかが定まりません。専門家に諮問しても、何を検証してもらうのかが曖昧になります。委託をしても、どの方向に計画を磨き上げるのかが見えてきません。

新庁舎の無い新拠点ゾーンをこれから決めるのに、それをこえる街づくりの方針を考えることができるのか、疑問に思います。

庁舎の建て替えは喫緊の課題ということは承知していますが、手続きだけは進んでいるように見えても、順番が逆になったり不確定な要素が多い新庁舎の予算に賛成することは、私には出来ません。

「まさにそれを考えるのがこの議案だ」というのであれば、新拠点ゾーンよりも現地の方がまちづくりに資するという明確な根拠や考えを示していただきたいですし、少なくとも、私が聞いた説明ではそのような考えは入っていませんでした。

これまで私が新拠点ゾーンへの移転案に理解を示していたのは、新しい建物が新拠点ゾーンにでき、そこから松戸駅周辺が変わっていく… 単なる庁舎整備を超えた、まちの未来への投資としての意味があったからです。

夢や希望も含めて、松戸市民にとって、まちが変わっていく期待を持てる計画だったからです。

市の財政状況を考えれば、事業費を抑える努力も、財政負担を軽減する工夫も、当然必要ですが、まちづくりには、お金には代えられない価値があります。

費用を抑えることばかりが前面に出てしまえば、まちづくりは小さくまとまってしまいます。

先にあげた近隣の事例を見ても、まちづくりが大きく動くときには、まず明確なコンセプトが示されています。

松戸市においても、50 万人都市の中心である松戸駅周辺をどう育てるのかという議論であれば、まず必要なのは、費用比較だけではなく、まちの未来像です。

執行部より、新拠点ゾーンと現市役所敷地の新庁舎が、それぞれの役割と機能を相互に高め合えるよう、両事業の連携を図るとの説明がありました。

しかし、その「相互に高め合う」関係が、具体的にどのようなものなのかは明らかにされてはいません。

庁舎が建設されなくなった新拠点ゾーンが、今後どのような役割を担うのか。この方向性も示されないまま、新庁舎整備の基本計画策定に進むことには、強い不安があります。

市役所が建たなくなった新拠点ゾーンとの役割分担をどう考えるのか。

市役所を現地に残すことで、松戸駅東口の未来にどのような価値を生むのか。

今回のように同時に議案を出すのであれば、松戸駅周辺全体を、どのように一体的に育てていくのか。

お金だけでは決められない重要なまちづくりの視点として、市長が明確なお考えを示していただければ本議案に賛成することはできません。

以上の理由から、
議案第3号 令和8年度松戸市一般会計補正予算（第2回）に
反対いたします。